

実践事例

ICT を使った書道学習

～ 動画の配信と Microsoft® Teams の活用 ～

千葉敬愛高等学校 教諭 板倉由香里

はじめに

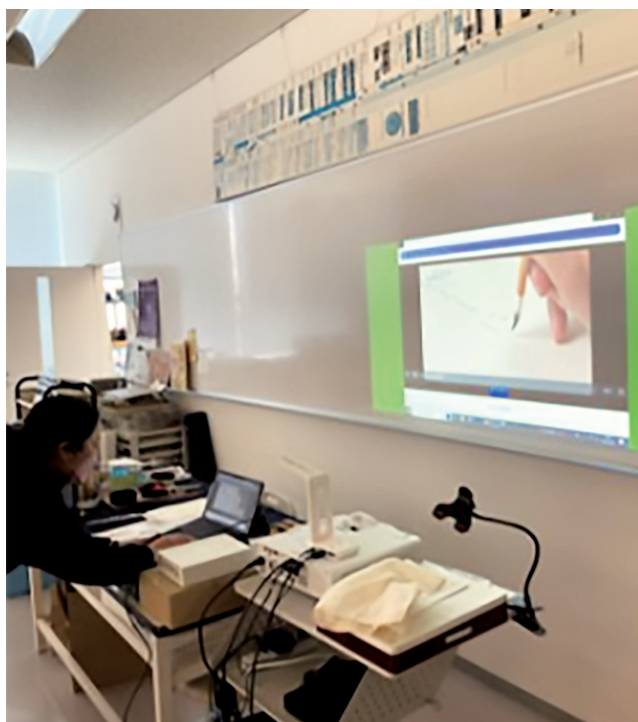
ICT を使った授業と聞いただけでも敷居が高く、どうしよう、何をやらたいのと思われる先生方も多いことと思います。私はパソコンの操作も得意ではなく、本校が令和4年度入学生から全員に Microsoft Surface を持たせ、授業でコミュニケーションツール Microsoft Teams を使用することになったとき、とまどいました。

そこで、パソコンの操作が得意でなくても ICT を使ってできることは何かを考え、まずは教科書の QR コンテンツ(動画)の視聴と Teams を使った学習の振り返りから始めてみることにしました。

1. 教科書の QR コンテンツを利用した動画の視聴

教科書の QR コードを読み込み、生徒が分かりやすいようにスクリーンへ大きく映し出します。生徒は自席でタブレット端末から同じ動画を見ることもできます。

教師が机間指導や添削をしている最中でも、生徒は分からないことがあった際に端末やスクリーンの動画を活用してすぐに確認することが可能です。実技系の教材は細かい操作や手順が多いので、短い動画をかなり活用している様子でした。



スクリーン(ホワイトボード)への動画の投影(仮名の書、篆刻)

2. Microsoft Teams を使った授業

生徒と教員間の授業連絡・クラス連絡などには、Teams を使用しています。書道の授業でも、Teams を使って課題を提出するように指示しました。

(1) 課題の提出

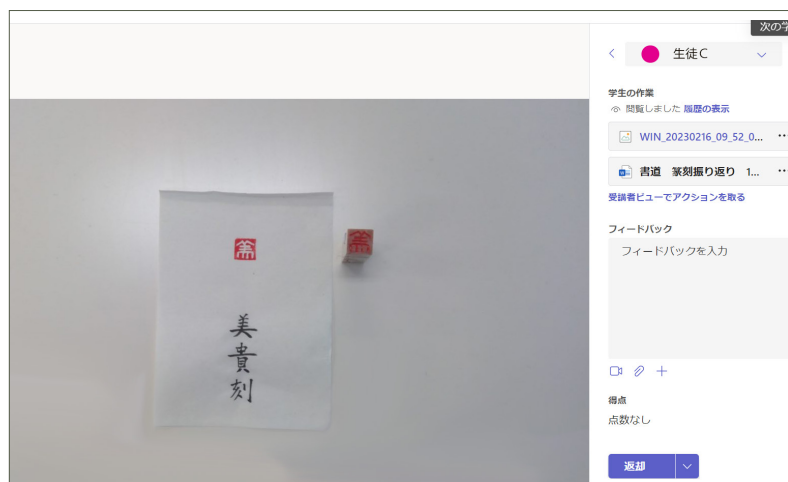
生徒はタブレット端末のカメラや録画機能を活用し、授業で制作した作品などを撮影し、Teams で提出します。Teams には、点数をつけたり生徒自身が書いた作品の比較をしたりできる機能があります。

この Teams の課題機能により、提出の有無も可視化され、簡単にチェックすることができるようになりました。

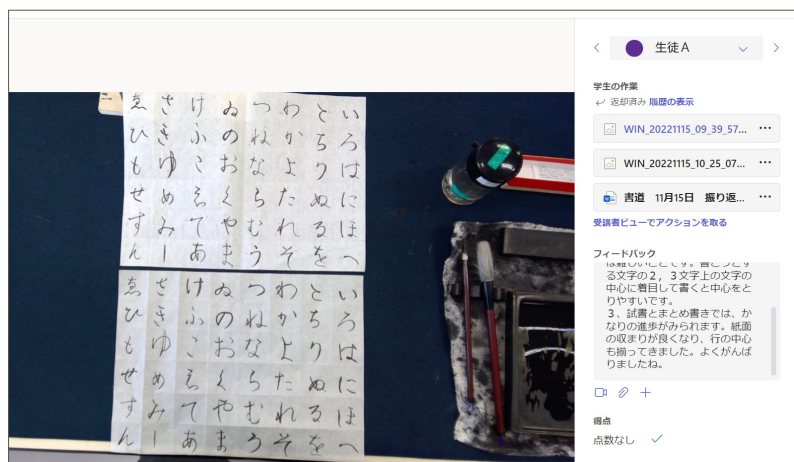
制作物（作品）の撮影：篆刻



制作物（作品）の提出画面：篆刻



「振り返り」画面：仮名の書

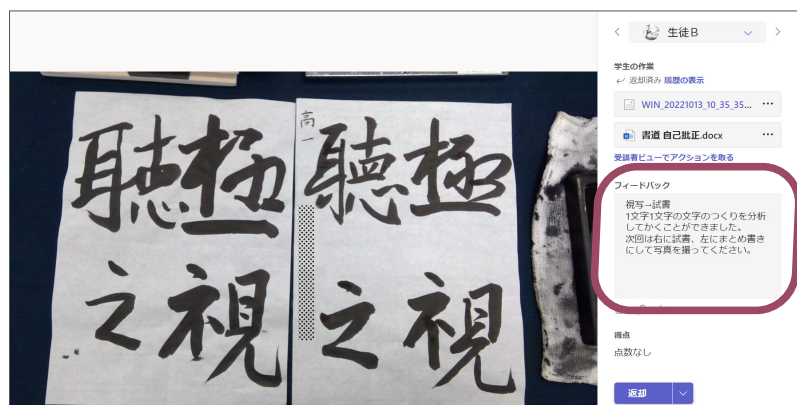


(2) 教師からのフィードバック

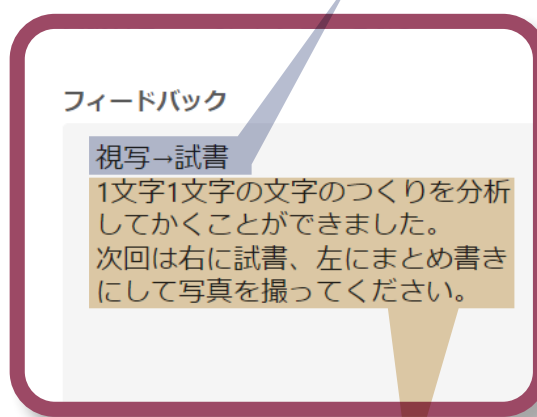
Teams の課題機能を活用すると、提出された課題にコメントを書いてすぐ生徒に返すことができるので、生徒へのレスポンスやフィードバックがとても円滑に行えるようになりました。

生徒も「授業で書いて終わり」ではなく、自分で書いた作品の比較や見直しをしたり、感想を書いたりして、振り返ることができます。教師も授業内の時間でフィードバックをすることも可能です。

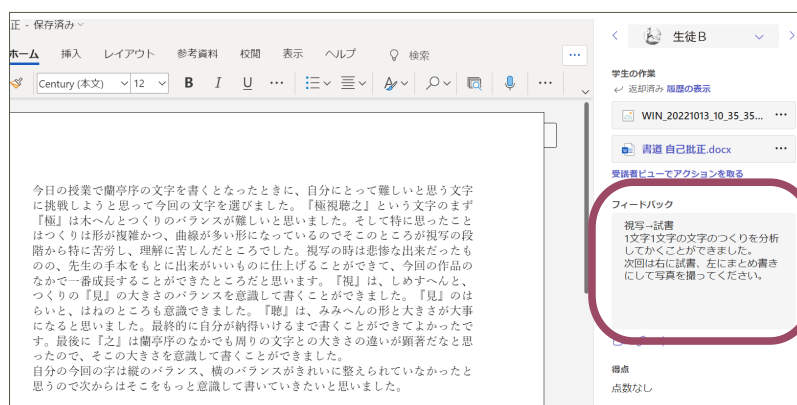
生徒の「振り返り」と教師からのフィードバック：漢字の書



誤字の訂正



次回の指示



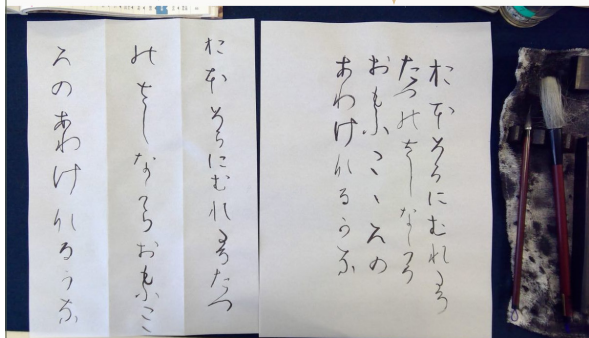
※^{ししよ}試書

説明を聞かずに手本を見て書くこと。
1枚目の作品のこと。

※まとめ書き（授業時間のまとめの作品）
練習、添削などをした後の提出作品。

生徒の「振り返り」と教師からのフィードバック：仮名の書

課題の提出



生徒 A

学生の実績

WIN_20221115_09_39_57...

WIN_20221115_10_25_07...

書道 11月15日 振り返り...

受検者ビューでアクションを取る

フィードバック

得点

生徒の「振り返り」

Century (本文) 10.5 B I U

1. 試書とまとめ書きを比べてみて、△をつけたことで分かりやすくなって書きやすくなった。試書の時に比べて、筆を立てることを意識して書いたら、よりいい字が書けるようになったと思う。

2. 進捗になると、文字と文字がつながっている部分が、まっすぐかけず曲がってしまうことが多かった。次やるときはそこに注意して書いていきたい。

3. 進捗で初めて書いてみて、バランスが悪くなりすぎてあまりうまく書けなかった。その理由は2の反省と同じだと思うので、注意したい。

生徒 A

学生の実績

WIN_20221115_09_39_57...

WIN_20221115_10_25_07...

書道 11月15日 振り返り...

受検者ビューでアクションを取る

フィードバック

得点

フィードバック

は、は、ひ、い、こ、こ、り。言、こ、り、る文字の2、3文字上の文字の中心に着目して書くと中心をとりやすいです。

3、試書とまとめ書きでは、かなりの進歩がみられます。紙面の収まりが良くなり、行の中心も揃ってきました。よくがんばりましたね。

おわりに

この実践では Microsoft Teams を使って「振り返り」や作品の投稿を行いました。生徒たちはノートも持っています。ノートには、古典のワークシートや自身の作品を時系列で貼っています。

Teams を使った「振り返り」を行ってみて、気付いたことがいくつかあります。

まず、生徒たちは筆記具を使ってノートに「振り返り」を書くよりも、はるかにスムーズに短時間で「振り返り」をパソコンに打ち込み、素直な気持ちを伝えることができることです。鉛筆で書いた文字を訂正するときの、鉛筆を消しゴムに持ち替えて文字を消し、また鉛筆を持って書くという作業に比べて、パソコンでは簡単に文字を消し、打ち直すことができるため、生徒たちには取り組みやすいのではないかと思います。次に、実際の作品を並べて比較するよりも、作品を並べて画像にしたほうが、生徒たちは作品の違いを把握しやすいことも分かりました。

今後はパソコンを使いポートフォリオを作成し、1年間の作品を動画にし発表する、篆刻の制作過程の記録を作るなど、少しずつパソコンを使ってできることを増やしていきたいと思っています。

「実践事例」は、東書 E ネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/> でも会員限定で公開しております。

東書 E ネットは、教育関係者を対象とした教育情報・教育資料の提供サイトです。会員登録は Web や FAX など受け付けております。

Copyright©2024 by Tokyo Shoseki Co.,Ltd.,Tokyo All rights reserved. Made in Japan.

QRコード®は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Microsoft Surface、Microsoft Teams は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。